

生誕150年
記念シンポ

斎藤實の偉業を顕彰

本市出身で、昭和7年に第30代内閣総理大臣に就任した斎藤實の生誕150年記念シンポジウムは11月15日、市文化会館で開かれました。会場には約700人が訪れ、激動の時代をリードし、悲劇に見舞われた先人の生涯をしのびました。

シンポジウムは、盛岡市在住で作家の松田十刻さんによる基調講演と、東京大学の加藤陽子准教授・外村大准教授、斎藤實の孫の岡百子さん、相原正明市長による意見交換を中心に行われました。

斎藤實は安政5（1858）年10月27日、現在の水沢区吉小路に生まれました。海軍軍人から政治家となり、朝鮮総督、総理大臣などを歴任しました。英語が話せる国際派、着実な仕事ぶりと実直な人柄などが評価され、次第に彼を押し上げていったのです。

斎藤實と言えはまず思い浮かぶのが、昭和11（1936）年の2・26事件です。一部陸軍軍人によるクーデター未遂により、当時内大臣であった斎藤を含め3人が殺害され、岡田啓介総理も重傷を負った事件です。斎藤は昭和天皇の側近として信

頼が厚く、彼の死を伝えられた天皇が大泣きしたというエピソードも伝わっています。

基調講演で松田さんは、政治の中枢にあつて、国際協調を説いた姿勢を評価。「日本は斎藤を失った日から軍国主義の道を走り出した。斎藤を失ったことは、日本にとって大変不幸なことだった」と話しました。松田さんは、記念事業として来年2月7・8日に公演される市民劇「陽だまりのなかの春子さん」の原作も担当しています。

シンポジウムでは、水沢小学校6年生による構成詩の発表、椿の会（水沢区）により顕彰歌「偉大なる面影」（作詞三浦千恵さん、水沢区、作曲高橋和夫さん、江刺区）が披露され、郷土が生んだ偉人に思いをこめていました。

■問い合わせ 市教育委員会事務局水沢支所（内線281）

ふるさとCM大賞で金賞受賞



ふるさとCM大賞in I W A T E 2008（岩手朝日テレビ主催）の審査会は11月23日、盛岡市のいわて情報交流センターで行われました。31市町村の作品が審査され、本市の作品「第1回奥州カップ」が、大賞に次ぐ金賞（岩手県知事賞、副賞としてCM放送150回）を受賞しました。

この企画は、県内市町村が30秒のCM作品を制作し、「ふるさと愛」をテーマにその内容を競うものです。

本市の作品は、水沢競馬場を舞台に、市の特産品である米・和牛・リンゴがユーモアたっぷりにレースを繰り広げ「おいしさ」を訴える内容です。審査会の模様は、12月27日（国）午後4時から同テレビにて放映されます。

■問い合わせ 本庁政策企画課 広聴広報係（内線419）

市の出来事から

えさし藤原の郷開園15周年を祝う

歴史公園えさし藤原の郷開園15周年記念式典は11月23日、同園政庁を主会場に行われ、相原正明市長、渡辺幸貫県議会議長ら約200人が出席しました。

式典は同園のシンボルとも言える政庁（平安時代の政治・行政を行う中心施設を模した建物）で行われました。青空に朱

塗りの鮮やかな柱が映える舞台では、原舞（はらま）舞（江刺区）の演舞がオープニングを飾りました。続いて主催者あいさつをした相原市長は「貴重な観光拠点として市の発展に寄与している。今後も全国に発信しながら新しい都市づくりを推進したい」と述べ、観光の核施設として、さら

なる飛躍を誓っていました。園内ではほかに記念行事として、平泉郷土館の大矢邦宣館長による講演や、5自治区の郷土芸能競演が行われるなど、節目の日を華やかに祝いました。

同園は、平成5年のNHK大河ドラマ「炎立つ」ロケの誘致をきっかけに、本格的な平安建築群を再現した歴史公園として同年7月にオープン。以来ドラマや映画など109作のロケが行われるなど、全国に通じる観光地として定着しています。

宇宙遊学館開館7カ月で1万人に

ことし4月21日に開館した奥州宇宙遊学館で11月23日、入館者が1万人を突破し、記念のセレモニーが行われました。

1万人目の入館者となったのは佐藤奏君（7）金ヶ崎町Ⅱで、家族と一緒に見学に訪れ、見事幸運を射止めました。奏君には、菅原義子教育長から来館記念証や組み立て式の天体望遠鏡などが贈られました。

同館は、水沢緯度観測所本館として大正10年に建設され、洋風木造建築として長い間市民に親しまれてきました。老朽化により一度取り壊しが決まりましたが、市が無償譲渡を受けて改装、開館したものです。



晴天に恵まれた開園15周年記念式典。政庁で華やかに行われました（上）



11月に園内の伽羅御所で行われた映画「TAJOMARU」のロケ。作品は来年秋公開の予定（右）



菅原教育長から来館記念証などを受け取る佐藤奏君



亀井ミサヲさん(11月16日)



菊池チトセさん(11月12日)

水沢の菊池さん、亀井さんが百歳

11月は水沢区のお年寄り2人が満100歳を迎えました。原田守水沢区長からそれぞれ記念の増沢塗が手渡されました。

菊池チトセさん（羽田町字門下Ⅱは、江刺区岩谷堂出身。17歳で故・権五郎さんと結婚し1男をもうけました。几帳面な性格で、現在も新聞2紙にゆとり目を通し、周りの整理整頓を欠かしません。最近までは日記も毎日つけていたそうです。

亀井ミサヲさん（大手町三丁目Ⅱは、金ヶ崎町出身で、故・松吉さんと結婚。駄菓子屋の卸業を営み、水沢・金ヶ崎間をリヤカーを引いて往復しました。6男4女を育て上げ、現在はひ孫16人、やしやご1人に恵まれています。